

TTC 山行実施記録表(提案)

2011年8月5日 報告者:佐藤末治 (1/2)

山行名	TTC15 周年記念北ア後立山リレー山行(Cコース:白馬三山・不帰ノ嶮・唐松岳)								
実施日	2011年7月23日(土)~25日(月) 2泊3日 往路レンタカー(ハイース)・帰路公共交通利用								
天候/参加人員	天候:7/23 晴れ、7/24 晴れ、7/25 晴れ レベル:★★★ 参加6名								
パーティスタッフ	CL/計画:、SL/写真:、会計:、救護:、記録:、給湯: 氏名削除								
参加メンバー	氏名削除 男4名、女2名								
費用 ¥34,800- カンパ金 ¥2,500-	内訳:ハイースレンタル料 ¥25,000、ドライバー謝礼(¥18,000+早朝割増 ¥7,000+距離加算 ¥2,000) ¥27,000、燃料代(@135×550km/5) ¥14,850、高速代(往路 ¥2,450+帰路 ¥4,900) ¥7,350 往路交通費合計 ¥74,200×6/10(Cパーティ6名分) ¥44,520、帰路電車代(特急あずさ26号八王子まで ¥6,620×6) ¥39,720、宿泊代(白馬山荘 ¥9,000×6+唐松山荘 ¥9,000×6) ¥108,000、 リフト・ゴンドラ代(@1,400×6) ¥8,400、入浴料(第二郷の湯 ¥400×6) ¥2,400、タクシー代(第二郷の湯~白馬駅 ¥1,080+ ¥1,180) ¥2,260、通信費 ¥1,000 費用合計 ¥206,300- 集金(¥34,800×6名) ¥208,800 差額 ¥2,500 を TTC カンパ (入浴料は ¥100 の割引券使用)								
	行動時間			歩行時間			休憩時間		
	7/23	7/24	7/25	7/23	7/24	7/25	7/23	7/24	7/25
ガイドブック				6:00	7:10	2:10			
計画	8:30	10:00	2:50	7:05	8:10	2:35	1:25	1:50	0:15
実行	8:30	10:25	4:13	6:57	8:51	3:28	1:33	1:34	0:45
実行コースタイム記録									
◆7/23(土) 1:15 アイゼン装着 2:42 昼食 2:15 本厚木 == 談合坂 SA == 梓川 SA == 猿倉 --- 白馬尻 --- 葱平 --- 村営頂上宿舎 --- 2:26 3:50 4:10 5:22 5:35 7:00 7:20 8:35 8:53 (大雪溪) 11:35 12:00 14:15 14:25 20 15 10 --- 白馬山荘 --- 白馬岳山頂 --- 白馬山荘(泊) 14:45 15:15 15:30 15:40 15:50									
◆7/24(日) 1:15 18 希望者のみ 17 43 54 28 30 白馬山荘 --- 杓子岳分岐 --- 杓子岳 --- 杓子沢のコル --- 鑓ヶ岳 --- 天狗山荘 --- 天狗の頭 --- 5:30 6:45 7:03 7:08 7:25 7:28 8:11 8:20 9:14 9:30 9:58 10:05 60 38 1:10 16 1:04 18 大下り開始点 --- 不帰キレット --- 不帰ノ嶮 I 峰 --- II 峰北峰 --- II 峰南峰 --- 唐松岳 --- 唐松山荘(泊) 10:35 10:45 11:45 12:05 12:43 13:53 14:02 14:18 14:21 15:25 15:37 15:55									
◆7/25(月) 54 1:30 コーヒータイム 1:04 リフト・ゴンドラ 入浴 昼食 あずさ26号 唐松山荘 --- 丸山 --- 八方池 --- 八方池山荘 ~ ~ 八方 --- 第二郷の湯 == 白馬駅 == 6:56 7:50 8:00 9:30 10:05 11:09 11:47 11:58 12:48 12:52 14:38 == 八王子駅 == 本厚木駅 18:01 19:00									
概要・特記事項・反省事項等									
◆7/23(土) Cコースは長期間の休暇が取れないメンバーや、全山縦走に自信の持てないメンバーのために、2泊3日で後立山の核心部を歩く贅沢な企画だった。我々のCパーティ6名は、最初の2日はAパーティと同行であったため、総勢10名の賑やかな山行となった。 猿倉から白馬尻までは天候に恵まれ、さすがに暑かったが、大雪溪は冷蔵庫の中を歩く涼しさで、真夏の山行としては最高の醍醐味である。雪溪上にはかなりの落石が見られるが、我々の歩行中はルート上に岩が転がってくることはなかった。しかし、左の杓子岳側からは、常にガラガラと岩の崩れる音が聞こえていた。 葱平のとり付きは Mさんの情報通り、ルートが変更されていた。雪溪の終点が溶けて崩れている為、右に迂回するルートが出来ていた。遠回りのため、10分程度のロスタイムはありそう。葱平でようやく昼食にありつく。 葱平から村営頂上宿舎までの間は、見事なお花畑である。この時期は山の花々と出会うには最高のシーズンだ。小雪溪は踏み跡がはっきりしているが、かなりの急傾斜であるため用心してアイゼンを使用する。見上げると、今ま									

でガスに隠れていた白馬山荘が姿を現わした。あと一息である。

山荘に着くと、Bパーティの皆さんが我々を出迎えてくれた。すでに山頂も踏んで、生ビールで乾杯した後らしい。さすが、前泊組みの先輩連と若手のお二人は余裕である。

受付を済ませた後、空身で白馬岳山頂をピストンする。途中、雷鳥が一羽、コースから数mのところまで食事中だった。大勢の登山客からカマを向けられても平然としている。さすがに白馬の雷鳥だけあってたいしたものだ。まるで写真のモデルとして白馬の宣伝に一役かっているようだ。

山荘に戻って待望の生ビールで祝杯を上げる。しかしレストランの会計は、ビールと他のお土産を買うお客と同じレジであり、20名以上の長蛇の列ができています。ビール一杯買うのも一苦労だ。日本一大きくて、歴史のある山小屋にしてはお粗末である。部屋は個室であったが、狭いためCLは布団棚に上がって寝た。

◆7/24(日)

朝食は5時とのことで4時半から並んで順番を待つ。Syさんが食欲が無いという。どうも高山病の気が出たらしい。今日は本山中のメインイベント、不帰ノ嶮の岩稜帯の通過が待っている。ちょっと心配したが、何とか元気を取り戻してくれて一安心。

最初の山頂、杓子岳はザレ場の登りである。これからの長い縦走に備え、体力を温存したいため、元気な希望者のみの登頂とした。Aパーティ1名、Cパーティ2名が挑戦することになり、他のメンバーはトラスしてこの3名の下山を待つ。鑓ヶ岳の山頂からは、残雪の劔岳や立山三山が望まれる。鑓ヶ岳を下ると、しばらくしてBパーティのコースである鑓ヶ温泉に下る分岐がある。我々はこれを直進し、天狗山荘を超えて天狗ノ頭から天狗の大下りを目指す。

大下りの開始点に着くと、年配の女性が登ってくる仲間二人を待っていた。横浜から来たとのこと。かなりの実力差が有るらしく、後から来る二人はバテバテである。横浜から来たにしては冴えないモンペをはいている。(我々にはモンペに見えたが、もしかしたら最新のファッションなのかも?)。年配の女性3人のパーティで不帰ノ嶮を逆コースから来るとは大したものだ。日本女性のたくましさには、ただただ敬服するばかりである。

天狗の大下りを慎重に下り、不帰ノ嶮で昼食休憩をとる。いよいよ本山行の核心部である。まずは不帰ノ嶮I峰の鎖のトラスから始まる。I峰はなんなくクリアし、II峰の北峰にかかる。ここが最大の難所で、ほぼ垂直に近い崖壁が目の前に立ちふさがります。まずは一息入れて、これから登るルートを目で追うが、下から見上げるかぎりルートがはっきりしない。意を決し、垂直にたれた鎖につかまって何とか崖壁をよじ登ると、今度は岩の割れ目に水平に置かれた鉄梯子である。まさにスリル満点。ここからは富山県側の垂直の崖壁を避け、長野県側に巻いて行く。

III峰は右から大きく半周まくと、唐松岳の山頂も近い。ガスに隠れて見えないが、山頂付近から聞き覚えのあるIさん、Yさんの声が聞こえてくる。先に八方尾根を登ってきたDパーティが、我々の到着を待っていてくれたらしい。我々の前をいくAパーティが山頂に到着し熱烈な歓迎を受けている。山頂に着くと、我々Cパーティも感動的な出迎えを受け、感激のあまり舞い上がってしまい、到着時間を記録し忘れた。

山荘に着くとDパーティの皆さんが、今度はウエルカムコーヒーとクッキーで歓待してくれた。久々に飲むコーヒーの味は格別なものがある。只々Dパーティの皆さんの心遣いに感謝。

唐松山荘は平成21年に建替え工事が完了したそうで、規模は小さいが白馬山荘より快適である。特にトイレがきれいなのが嬉しい。

◆7/25(月)

今日はのんびりと八方尾根を下るのみ。朝食は6:10にしたが、針ノ木まで縦走するAパーティは5:10の食事である。ここまでお世話になったAパーティを見送るため、我々も4:30に起床する。元気に出発するAパーティをDパーティと一緒に見送り、ゆっくり朝食をとった後、山荘をあとする。

このコースからは昨日縦走した鑓ヶ岳から不帰ノ嶮が一望できる。よくもこの険しく長い稜線を歩き切れたものだと、あらためて自分をほめてあげたくなる。

八方尾根も白馬に劣らず、花の多いコースである。コースタイムを気にせず、写真を撮りながらのんびりと下る。CLの独断で感動した花々を上げると、トラスの斜面で見つけたシラネアオイ、いたる所に咲き誇るピンクのシモツクソウ、クルマユリ、可憐なカネナデシコ、斜面全体に群生するニッコウキスゲ等々、厳しい環境で生き続ける花々の競演に感動。

まさに観光地と化し、人であふれる八方池でコーヒータイム。危険な箇所をすべてクリアし、安心してのむコーヒーの味は、また格別である。

リフト2本とゴンドラを乗り継いで八方に到着。そのまま温泉に向かう。11:55第二郷の湯に着くと、なんと温泉の入浴開始時間が12:00とのこと。まさにドンピシャ。あまりの幸運に我ながらびっくりである。幸運といえば、温泉に到着した途端に雨が降り出した。この温泉は六角形の檜造りで、湯質はアルカリ泉。肌がツルツルになる美人の湯として有名である。

風呂から上がってもまだ雨が止まないなので、バスをあきらめタクシーを呼ぶ。白馬の駅まで一台¥1,000少々。バス代とたいして変わらない。

白馬駅前の食堂で、無事下山を祝い生ビールで乾杯する。昼食のメニューは蕎麦定食。身体の大きなSyさんはカツ丼付き。山小屋の食事でもまあまあだが、やはり下界のメニューには勝てない。カツ丼のおすそ分けまで頂き、ビールのほろ酔いも手伝って大満足。何故かしら生ビールはTsさんのおごりになる。ごちそうさまでした。

予定より遅れたことが幸いし、電車は松本で乗り換えの必要が無い14:38発のあずさ26号に乗ることが出来た。白馬からは自由席もがらうで、八王子までゆったり座って帰ることができた。座間でSyさん、海老名でItさんと別れ、19:00本厚木に帰着。

◆最後に

いつも話し声の絶えることがない会計のベテラン、パーティのサンシャイン Ukさん、後ろからしっかりとホローしてくれたSLのKsさん、おいしいコーヒーを入れてくれたSyさん、詳細なコースタイムを几帳面に記録してくれたItさん、垂直の岩場も臆せず安定した歩きを見せてくれたTsさん。それぞれの役割で頼りないCLに快く協力してくれたCパーティのメンバーに感謝します。ありがとうございました。